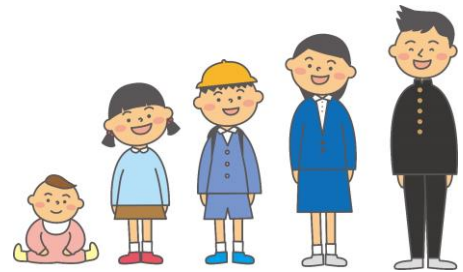




子供たちを育むために

教育において「これをやればうまくいく」という法則のようなものはないと思っています。ただし、うまくいったケースを集めて、その方向性を定めることはできるし、「これをやると大体問題が起きる」というものがあると思います。犯罪心理学専門の方のお話ですが、「子供は思っていることの1%も口に出せない。だから保護者や教師は常に子供を観察して、何か異変が起きていないか確認することが大切」ということでした。また、家族で話し合うことも重要で、親が一方的に決め、子供に従わせるようなことはせず、常に話し合って合意をとることを大事にしなければならぬとおっしゃっていました。学校でも学級会で合意形成を図って、学級で取り組むことを決めていきますし、学校で取り組むことは、代表委員会で合意形成を図って決定します。また、自分に合った「めあて」を意思決定させて取り組ませて振り返らせて成長を味わわせることを大事にしながら学級・学校経営を行っています。



家庭が百あれば百通りの姿があり、それぞれの家庭に事情があり、子育ての環境もさまざまです。思い通りにいかないのが子育てであり、「早くしなさい!」「何度言ったらわかるの!」と感情を爆発させてしまうこともあると思います。

私が担任をしていたときに、大切にしていたのは、子供に言い過ぎてしまったとか、あの言い方はよくなかったと思ったら、子供に伝えて謝っていました。家庭でも「さっきはあなたのことが心配でつい言い過ぎちゃった。ごめんね。」と伝えれば、子供も自分と真剣に向き合ってくれていると感じてくれるはずです。子供は大人の都合で動いているのか、それとも自分に向き合ってくれているのかをすぐに察知します。

うまくいかないことがあっても、愛情をもって真剣に向き合っていれば、何とかなるのです。また子育ての悩みを共有できるのも学校であると思います。これからも家庭と連携して子供たちを育てていきたいと思っています。

帯山西校区指定避難所運営委員会

9日(土)に、帯山西地域コミュニティセンターにて運営委員会がありました。主な議題は、災害時の帯山西小校区における避難所開設と訓練についてでした。各町内自治会の方々、帯山西小PTA 会長・副会長・熊本市の担当職員の方々も一緒に会議をしました。参加された方が、とても真剣に話し合われており、防災意識の高い校区であることを再認識しました。



熊本地震の時は、帯西の運動場にきれいに自主的に非難されてきた地域の車がきれいに整列して駐車されていたこと、卒業生の中高生が自主的にボランティアに来校したことを思い出しました。11月26日(日)には、午前中に帯山西小で避難所開設訓練が行われます。お子さんと一緒に参加されてみてはいかがでしょうか。